

高 音質衛星デジタル音楽放送、ミュージックバードにて、この4月から『麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負』がスタートする。毎週日曜日の午前11時からの2時間番組だ。第一回放送が4月5日。その再放送が次の日曜日の同じ時間。月の第1日曜日が初回で、残りの毎日曜日に再放送を行なうというシーケンスで、毎月放送する。

内容はe-onkyo musicの新譜アルバムから、選りすぐりの傑作を紹介するというもの。私は2015年1月から共同通信のウェブサイトで『麻倉怜士のハイレゾ10本勝負』連載を始め、その後、ASCII.jpの『麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負』に移行し、現在に至っている。これまで5年間で600作品以上をレビュー、紹介してきた。私が選び、インプレッションを書いた記事の実際の楽曲をぜひ聴いていただきたいと思い立って、番組を始める運びとなった。なので、番組タイトルはアスキーでの連載と同じ『麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負』。

前月の中旬に出た連載記事の内容を、翌月の第1週に聞くというイメージだ。1アルバムからポップスなら1~2曲、クラシックの交響曲なら楽章まるごと再生する。ぜひ記事を読みながら、聴いて欲しい。

第1回放送の内容から1曲紹介しよう。オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア管弦楽団『マーラー：交響曲第4番』。1961年にロンドンはキングズウェイ・ホールでのセッ

ション録音だ。クレンペラーが22歳の時、マーラーの交響曲第2番「復活」を彼がピアノ版に編曲した楽譜をマーラーが見て、感心。ブラハのドイツ歌劇場への推薦状を書き、クレンペラーは見事、その地位を獲得したというエピソードがある。マーラーを尊敬するクレンペラー演奏は遅いテンポで、表現と表情が緻密で濃密だ。今の時代では考えられない、深みと暖かみを持った演奏だ。

……こんな話をしながら、ハイレゾ・ディスクジョッキーをしようと思う。ミュージックバードにはたくさんのチャンネルがあるが、そのなかで124チャンネル「The Audio」の枠で放送だ。私は90年代の中頃、衛星PCM放送がスタートした時、これこそ理想の音楽放送だと思い、熱心に取材していた。ところがその後一局一局と減っていき、ついにはミュージックバード一局になってしまった。しかし今、孤軍奮闘で頑張っている。筆者は昨年12月にアンテナ工事を行ない、専用チューナーを導入。以来、24時間休みなしにクラシック、ジャズ音楽番組を楽しむ生活を送っている。

音質的にはかつてのリニアPCMではなく、ロッシーのデジタル圧縮になったが、チャンネルによって128kbpsから384kbpsまでの複数のパラメーターがあり、私の番組ももちろんプレミアムだ。副MCはe-onkyo musicの祐成秀信氏。コンビで長年、連載を進めている仲間であり、今回も二人で番組をお送りする。



◀▲ミュージックバードとは、24ビットデータ配信が売りのデジタル音楽放送メディア。受信には専用のアンテナ、チューナーが必要だ。なお、「麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負」は毎週日曜AM11時からの放送。MCのお相手はe-onkyo musicの祐成秀信さん（写真左）が務める

ハイレゾ・ディスクジョッキー 『麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負』スタート